

平成24年度
中四国剣道リーダーセミナー
報告書

『瀬戸内の地、江田島でレベルの高いリーダーとしての資質を磨こう』



2013年
中四国学生剣道連盟

(担当：常任幹事 式地淳史・香川大学)

実施概要

日程：平成25年3月9日（土）～11日（月） 2泊3日

会場・宿泊：国立江田島青少年交流の家

広島県江田島市江田島町津久茂1-1-1 TEL 0823-42-0660

主催：中四国学生剣道連盟

主管：広島国際大学剣道部

参加者：男子 72名、女子 34名、計106名

担当先輩役員：大城戸功先輩、榊 康守先輩、村井慎治先輩、香川直己先輩

廣畑栄三先輩、福井悦郎先輩、石井博貞先輩

実行委員：式地 淳史（実行委員長：香川大学）他、中四国学生剣道連盟学生役員10名

日程

9日（土）

11:30～ 受付

12:00～ 開会式・オリエンテーション・昼食

13:30～ 審判講習、PC研修会（同時進行）

20:00～ シンポジウム「リーダーになるために」

10日（日）

9:00～ 実技研修1 講師：榊 康守先輩

10:00～ 実技研修2 講師：大城戸 功先輩

12:00～ 昼食

13:30～ 実技研修3 講師：大城戸 功先輩

19:30～ 交流会

11日（月）

9:00～ リーゼミ選手権

12:00～ 昼食

13:00～ 閉会式

H25年3月9日から11日にかけて、広島県の江田島でリーダーゼミナールが行われた。準備から最終日の試合までを以下の項目に分けて、それぞれについて良かった点や改善点等を挙げていく。

- ・1日目（審判研修、シンポジウム）
- ・2日目（実技指導、交歓会）
- ・3日目（試合）
- ・アンケート結果
- ・その他の改善点

平成25年3月9日(土)

○1日目 審判研修(13:30~16:30) 講師: 榊 康守先輩、廣畑栄三先輩
村井慎治先輩

審判研修では審判員の姿勢、立ち位置、1本の判定基準について学んだ。この3点は長年剣道をしてきた大学生でも正しく行える人は少ない。それは今までに審判法について学ぶ機会が殆どなく、自分の中のイメージで審判をしているからである。また、練習試合で学生同士の審判をしても学生の審判の仕方について指導があるわけではないので、間違えたままになっているからである。審判研修を通してこの3点をきちんと抑えることにより、研修前より研修後の方が、見た目が良くなっていた。

審判員の姿勢については試合場への入退場の仕方、審判旗の持ち方を指摘されることが多かった。入退場するとき3人の動きが合っていない、審判旗の持ち手の部分のはみ出ししている、旗を揚げたときの腕の角度など細かいところまで指摘されていた。審判員の動きが揃ってたり、旗を揚げるときにしっかりと手が伸びていれば、見ている側にこの審判員はしっかり見てくれているという印象を与えられる。



立ち位置については試合を何度も中断しながら、この場面では審判者は何処に立っておかなければいけないのかということも指摘されていた。特に試合者が中途半端にまわったときや試合場の隅の方に移動したときに指摘されていた。指摘されていた様な場面では審判員が元の立ち位置より大きく離れる事になっていた。その時に、学生はどこまで動いて良いのか分かっていない様子だった。今回の研修で、審判員がどの範囲までを動くか確認することができたと思う。

1本の判定基準については審判をしている学生だけではなく、周りで見ている学生と試合をしている学生にも意見を聞いて今の技は1本になるかを確認した。試合を見ている角度によっては判定が逆になったり、相打ちになって一方に旗が3本あがったが、試合者に聞いてみるとお互いに当たっていないと言っていた事もあった。勢いだけで判定せず、しっかりと打突部位を捉えられていたのか、十分強度のある打突ができていたのかということを見極めないといけないということを学べたと思う。

審判研修では剣道の試合審判規則等を確認できるように小冊子を用意したが、今回は使われることがなかった。長年剣道をしてきた学生でも試合審判規則を見たことがある、知っているという人は殆どいない。大会では審判長が毎回使っている言葉だが詳細を知らないのである。そこで、今回の研修で少しでも目を通して貰えたらと思い用意したが、使う機会がなかった。内容は読んでみる

とよく知っていることなので直ぐに読み終えると思う。もう1冊用意した運営要領の手引きには具体的な事例についての解説も書かれているのでそちらも目を通して貰いたい。次回以降、どこかで目を通す時間を設けられないだろうか。

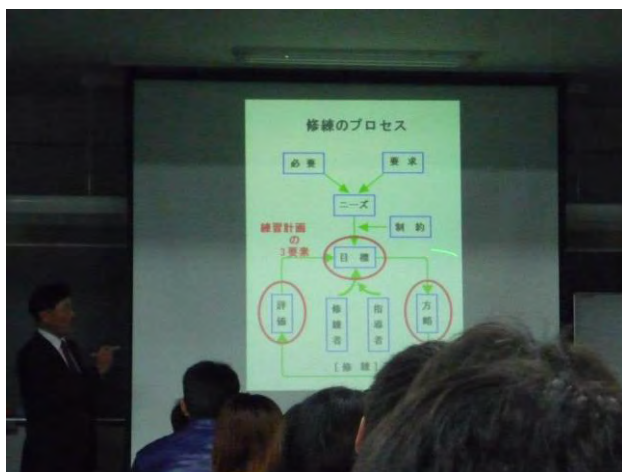
○パソコン研修会（13：30～16：30） 講師：石井博貞先輩

15大学22名が参加して行われた。この一年新規加盟した大学と中四学連の連絡システムに不慣れな学生が石井先輩からの指導で理解を深めた。

○シンポジウム（20：00～21：30） 講師：香川直己先輩

今回のシンポジウムは香川直己先輩に「リーダーとなるために」というテーマのもと講演をしていただいた。今回の講演内容は部活動の中だけではなく、社会に出てからも必要になる能力についてだったので非常に身になる内容だった。講演の中で話された「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」についてリーダーゼミナールの中で意識していこうという感想を書いている学生が多く見られた。

また、講演を通して目標を持つことの大事さを学んだ。ただ漠然と目標を立てるのではなく、その目標が達成可能なものなのかを検討する必要があると知った。目標を立てたらその目標を達成するために具体的な方法を考え、実行し、得られた結果から次はどうするか方法を考え実行するというサイクルを続ける。そうして、立てた目標に徐々に近づいていくのである。



感想文を読むとシンポジウムを通して学生の意識が大きく変わっていたことが分かった。リーダーとして必要な要素が分かったという学生や、目標をもって取り組むことの大切さがわかったという学生、リーダーゼミナールの残りの日程で意識していきたいという学生などやる気が見られる感想が多かった。来年以降もこのように学生の意識を変えられるようなシンポジウムを行いたいと思った。

平成25年3月10日(日)

- 2日目 実技研修1 (9:00~10:00) 講師: 榊 康守先輩
実技研修2 (10:00~12:00) 講師: 大城戸 功先輩
実技研修3 (13:30~16:30) 講師: 大城戸 功先輩

実技指導は榊先輩と大城戸先輩にして頂いた。榊先輩は時間がないときの稽古法として区分稽古を紹介してくださった。大城戸先輩は木刀を用いた型による剣道上達法を紹介してくださった。どちらの稽古法も各大学に持ち帰って、日々の稽古に取り入れて貰いたいと思うようなものであった。



区分稽古は繰り返し、基本打ち、地稽古を1セットとして行う稽古法である。普通は繰り返しや基本打ち、地稽古は別々に行われるものである。それを1セットにまとめて行うことで短い時間で十分に強度のある稽古ができる。1セットにかかる時間は長くても5分程度である。これは、大学生の試合時間と同じである。

区分稽古をすることでしんどくなってからも気持ちを切らさない稽古をすることができる。

木刀を用いた型による剣道上達法は1人でも行える稽古法である。すり足を基本として打突時の姿勢に気を付けながら行う。日本剣道型よりもシンプルで間合いを詰めて大きく面打ち、大きく小手打ちというように非常に基本的な稽古内容である。

この稽古法では自分が改善しないといけない点を確認し、直していくことができる。実際に行ってみると上半身がふらついたり、力みすぎたりするという改善点が出てくる。上半身がふらつくということは下半身がしっかりしていないということである。型をしているときに力みすぎているということは、普段から腕に力が入りすぎているということである。



ゆっくり大きくすり足で行うことで、このような改善点を意識して直すことができる。

すり足で何度か行った後、踏込足で行う。踏込足でもすり足の時と同じように姿勢に気を付けながら行う。まずは間合いを詰めて大きく打つ。何度か大きく打つ練習をした後、間合いを詰めて小さく打つ練習をする。このように少しずつ基本から行っていくことで、小さく打つ時の改善点を直すことができるのである。

○交流会（19：30～21：00）

交歓会は各大学の芸だしと翌日の試合のチーム決めで盛り上がったように思う。例年通り今年も各大学に自己紹介と一発芸を行ってもらった。お酒も入っていたのでいい雰囲気になっていた。自己紹介が終わるとくじを引いてもらいチームを決めた。最後の大学が紹介を終えくじを引き地チームのメンバーが決まったところで、自分のチームのメンバー確認をさせた。本来ならばメンバーを確認させた後で、チームごとに席についてもらい話をする時間を設ける予定だった。しかし、時間の都合上今回は行わなかった。



交歓会では1人当たり1000円でお菓子和飲み物を用意した。そのうちお菓子和飲み物に250円、飲み物に750円割り当てた。昨年はお酒が大量に余ったため今年はお菓子のほうにお金を回した。結果、今年はお酒が大量に余ることなくちょうど良かったように思う。ただし、お茶2リットルを12本用意していたのでお茶が大量に余った。来年お茶は3、4本でいいと思われる。

交歓会での改善点としてレストラン以外での飲酒を徹底できなかったこと、各大学の自己紹介と芸だしに時間がかかりすぎたことが挙げられる。交歓会終了後余ったお酒を部屋に持ち帰り部屋で飲酒をする学生が多数みられた。基本的にレストラン以外での飲酒は禁止されているので、来年以降は学生が持ち帰らないように呼びかけをしたい。自己紹介と芸だしは今年参加人数が多かったため、例年以上に時間がかかった。芸だしを何度もやり直す大学がいるため時間がかかりすぎるのだと考えられる。来年も参加人数が多い場合は制限時間を設け、時間を過ぎれば終了という形をとるとスムーズに流れると考えられる。

平成25年3月10日（日）

○3日目 リーゼミ選手権（9：00～12：00）

3日目は他大学のひと3人でチームを組み試合を行った。チーム決めは前日の交歓会で行い男子2人女子1人で組んだ。男子と女子が試合で当たる場合は初めから女子1本を与えている状態から試合を行った。試合前はまだよそよそしい様子だったが、試合を通して交流を深められていた。



審判研修で学んだことを生かす場として、審判は学生に行ってもらった。研修で先輩方に指摘を受けたことに注意して審判をしている人が多かったように思う。特に良い審判をしていた学生を先輩に選んでいただき、最優秀審判として表彰した。



優勝：秋田裕太（高知大学）、徳永航平（福山平成大学）、青木万里子（徳島文理大学）チーム
 2位：野中慧吾（広島大学）、多賀浩貴（広島大学）、山畑佳代（聖カタリナ大学）チーム
 3位：岡部孝信（岡山大学）、石橋俊之（島根大学）、倉原里奈（福山平成大学）チーム
 3位：北野五穂（愛媛大学）、谷本悠樹（香川大学）、河上由佳（高知県立大学）チーム

試合での改善点として、審判をする順番を要綱に記載していなかったのが当日混乱が起きた。事前にどのような順番で審判を行うのか決めておき、審判の順番を学生に周知しておく必要があると思った。



アンケート集計

・回答数46

1、開催時期について

- ①良い (22人) ②まあ良い (13人) ③普通 (10人)
④あまり良くない (1人) ⑤悪い (0人)

2、日数について

- ①長い (11人) ②適切 (35人) ③短い (0人)

3、開催場所について

- ①良い (13人) ②まあ良い (17人) ③普通 (7人)
④あまり良くない (9人) ⑤悪い (0人)

4、企画内容について

- ①良い (31人) ②まあ良い (10人) ③普通 (3人)
④あまり良くない (1人) ⑤悪い (0人) ⑥無回答 (1人)

5、参加費用について

- ①高い (10人) ②適切 (36人)

意見

- ・島なので交通の便が悪い。
- ・企画が楽しかった、ためになった。
- ・気候や景色が良かった。
- ・開催時期はちょうどいい。
- ・帰省の関係もあるので3月上旬がいい。
- ・2泊3日で交流する時間がたくさん持てた。

○その他の改善点

今後リーダーゼミナールを開催するにあたって各大学への参加の徹底、講師の先輩方の選出と依頼について考えていく必要があると感じた。

事前にリーダーゼミナールを開催する日にちを伝えているにもかかわらず、予定を入れている学生いた。このことは欠席及びパソコン研修の参加のみを希望している大学とのメールのやり取りで感じた。自分自身2日目からの参加をお願いするのか、欠席扱いとするのか悩んだので、ある程度明確な基準を設けたいと考える。欠席の理由は以下のようなものである。

- ・冠婚葬祭
- ・学校行事、学科行事 (卒業式、実習、試験)
- ・ボランティア
- ・体調不良

今回は主将、副主将、主務及び次それらの役職に就く学生が参加できない場合はほかの学生に参加させるようお願いをしたが、それでもよかったのだろうか。